

## 事例番号 089 住んでよし、訪れてよし(三重県志摩市・旧阿児町賢島周辺)

### 1. 背景

志摩市は 2004 年 10 月、浜島町、大王朝、志摩町、阿児町、磯部町の 5 町が合併して誕生した人口約 6 万人の市である。三重県の東南部に位置し、市域全体が伊勢志摩国立公園に含まれる。市域内には英虞湾等のリアス式海岸や真珠の養殖で有名な賢島がある。明治時代に御木本幸吉が賢島沖合いにある多徳島を拠点に真円真珠の養殖に成功して以来、賢島周辺は真珠の主産地として発展した。また、昭和に入るとリゾート開発が進められ、大型ホテルが建設されるとともに企業等の保養施設が多数設けられ、志摩地方は人気の高い観光地、保養地となった。

しかし、志摩地方の都市化が進むとともに生活排水等により英虞湾の汚染が進み、真珠の養殖は甚大な被害を受けるようになった。また、志摩地方の観光ピークは昭和 40 年代半ばであり、それ以後は観光志向の変化や真珠の養殖の衰退の影響で低迷するようになり、バブル崩壊後はさらに保養施設の廃止等も加わって志摩地方一帯の活気が失われる状況となった。このような長期の不況に対処して都市を再活性化させるために、旧阿児町(2004 年 10 月に合併して現在は志摩市の一部)が観光振興を内容とする調査を全国都市再生モデル調査に応募して採用された。

### 2. 目標

志摩市は自然が豊かで風光明媚な観光地であることから、志摩市総合計画(2006 年～2015 年)では、まちづくりの基本理念を「住んでよし、訪れてよしの志摩市」とし、まちづくりの基本目標(将来のまちのすがた)を市民と行政が共有する次の 6 つの「志(こころざし)＝おもい」に集約している。

- ① 環境の志 — 自然とともに生きる  
自然環境の保全、環境共生型社会の構築
- ② 生活・安全の志 — 安全を保ち、快適に暮らす  
災害・火災対策の推進、生活安全対策の推進、居住環境の整備等
- ③ 地域経済の志 — まちを潤す  
農林水産業の振興、商工業の振興、観光空間づくりの展開、志摩ブランドの構築
- ④ 健康・福祉の志 — 人と命を大切にする  
健康づくりの推進、医療体制の充実、福祉の充実、子育て支援の充実等
- ⑤ 教育・文化の志 — 人を育て、ふるさとを誇る  
生涯学習・スポーツの推進、学校教育の推進、伝統・文化の振興、交流の促進
- ⑥ まちづくりの志 — 未来を拓く  
行政サービスの向上、情報化の推進、市民に開かれたまちづくり、住民自治基盤の強化

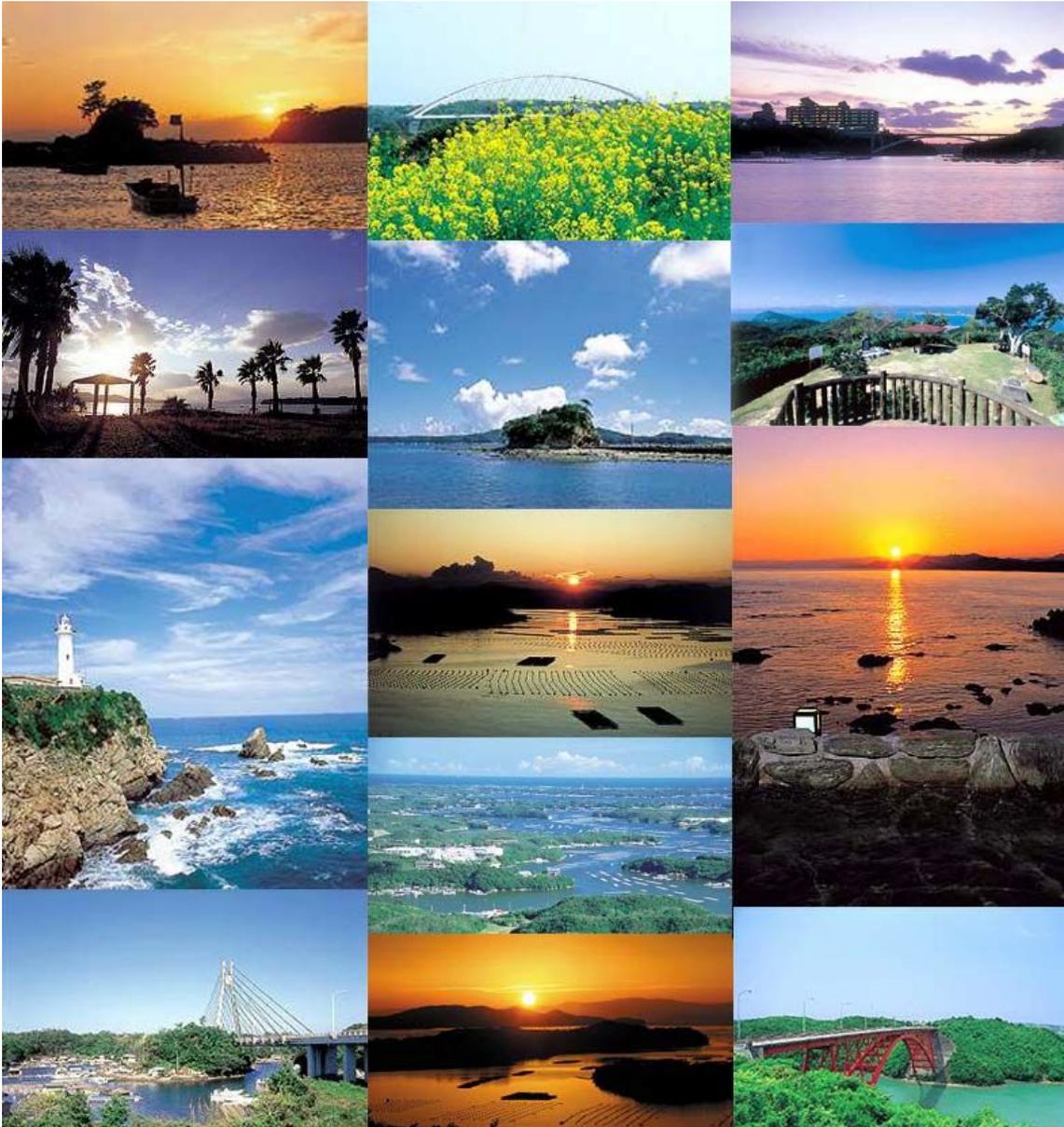
このように、志摩市のまちづくりは自然、環境共生、観光空間づくり、志摩ブランド、伝統・文化、交流、市民に開かれたまちづくり等を特徴とするが、これらの特徴が本件で採り上げる旧阿児町提案の都市再生調査の内容にもよくあらわれている。



志摩市の市域 (資料:志摩市)

### 3. 取り組みの体制

官民が協働してまちづくり計画を立案すべく、関係者や地元住民を中心に「賢島活性化会議」を立ち上げた。



志摩市の風景（資料:志摩市資料を加工）

#### 4. 具体策

##### (1) 全国都市再生モデル調査の内容

旧阿児町が 2004 年度の全国都市再生モデル調査として「体験型観光拠点(賢島周辺)整備調査及び基本計画」を提案し、採用された。この調査は、行政、地元住民、学術機関の三者による協働型まちづくりの方法を採り入れ、自然との共存・体験をテーマに観光拠点づくりの調査を行うとともに、基本計画を策定することを目的とした。具体的には以下の内容が実施された。

##### ① 「賢島活性化会議」の開催

「賢島活性化会議」は、2003 年度に地元関係者等を中心として歴史や文化を再確認し地区の活性化対策を模索するために発足したものである。本調査では、地元関係者、観光関係者、行政、

学術機関等の参加の下、本調査全体の企画進行、計画検討を行うため、計 5 回の会議を開催した(各回 15~20 人が参加)。これらの会議は、関係者が一体となって議論を行う貴重な場となった。

同会議では、当地区の整備方針として「体験型観光拠点」を目指し、早稲田大学の後藤研究所に依頼し、「賢島活性化マスタープラン」を作成した。同プランは、初めて真円真珠の養殖に成功した多徳島の活用、円山公園の整備、風光明媚な英虞湾の玄関口である賢島駅周辺の整備を一体的に行うという内容である。また、まちづくり社会実験「みんなが使える賢島」を行い、高齢者、障害者の疑似体験を通じて駅周辺のバリアフリー化等の意義を確認した。さらに、海洋・港湾等に関する専門家をパネリストとして招いて「海から発想する新・志摩市のまちづくり」をテーマにしたシンポジウムを開催した。志摩市民代表による「志摩の海を生かしたまちづくり」と題した基調報告も行った。

### 賢島活性化会議メンバー

地元関係	三橋 義弘	三喜屋真珠店
	西飯 弘	ホテルはなや
	大久保 修三	志摩マリノランド館長
	高木 美千代	パークホテルみち潮専務
	森田 公郎	元志摩観光ホテル・宝生苑、現商工会
	芳森 直人	芳森真珠店
	下村 国雄	阿児町観光協会会長
	岩城 真吾	イワジン真珠
近畿日本鉄道	小池 良幸	近畿日本鉄道(株)ステーションサービス名古屋営業部営業チーム(イベント)
国土交通省	村上 裕幸	国土交通省中部地方整備局四日市港湾事務所企画調整課企画調整係長
志摩市役所	西村 弘	志摩市建設部長
	谷口 一馬	志摩市建設部都市整備課長
	向井 長良	志摩市産業振興部観光振興課長
	松本 栄治	志摩市産業振興部水産課長
	岡本 哲	志摩市産業振興部観光振興課係長
	岡山 覚	志摩市建設部市営住宅課(元賢島担当者)
	上村 智之	志摩市教育委員会教育総務課(元賢島担当者)
事務局	濱口 真吉	志摩市建設部都市整備課都市計画施設係長
	池田 良晃	志摩市建設部都市整備課都市計画施設係
早稲田大学	後藤 春彦	早稲田大学理工学部建築学科教授
	吉田 道郎	早稲田大学後藤春彦研究室個人助手
	田原 潤一	早稲田大学後藤春彦研究室修士1年
	齋藤 亮	早稲田大学後藤春彦研究室修士1年
	平井 亮雄	早稲田大学後藤春彦研究室修士1年

(敬称略)

(資料:志摩市『賢島活性化マスタープラン』2005年3月、以下の資料も同じ)



## ② テーマカレッジの開催

賢島活性化会議と早稲田大学とが提携して2回開催した(2004年8月、2005年2月)。大学生が10～40人参加し、調査・活動・提案等を行った。地元からは各回約40人が参加した。

夏のテーマカレッジでは、車いすや高齢者に対するハード面での対応の遅れが指摘された。また、商店街の空き家の活用、多徳島のレンガ倉庫の整備等の提案がなされた。ソフト面では、住民の自発性やイベントの継続の必要性が指摘された。

冬のテーマカレッジでは、賢島の観光の低迷に関して、地元商店街と近鉄との関係のあり方について提案がなされた。また、空きホテルの活用や人力海上タクシーなど、必要資金が少なくすむビジネスの提案がなされた。

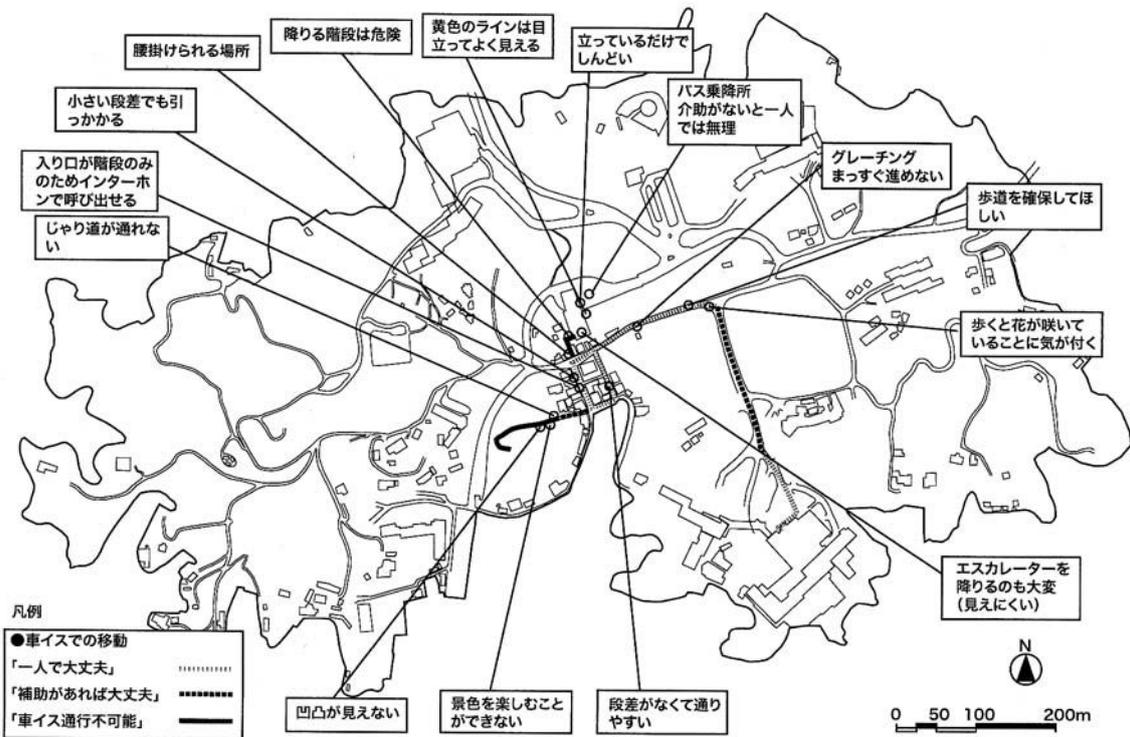
## ③ 社会実験「みんなが使える賢島」の実施

賢島の利用のしやすさを実地検証するため、車椅子・高齢者擬似体験グッズを用いた社会実験を行った(2005年2月)。それにより普段気がつかないまちの問題点が発見された。また、島内全域の道路を車いすで通ることができるか否かを確認して記録したマップを作成した。



(写真提供:志摩市、以下の写真も同じ)





社会実験で作成されたマップ(第1班(円山公園・宝生苑チーム)の例)

#### ④ まちづくりシンポジウム「海から発想する新・志摩市のまちづくり」の開催

志摩市民約 180 人参加の下、川勝平太氏の基調講演、旧 5 町の市民代表による基調報告、招聘パネリスト 4 人によるディスカッションを行った(2005 年 3 月)。これにより多くの市民が情報を共有することができ、市民が一体となってまちづくりに取り組む契機ができた。また、外部の人の参加により外への情報発信につながることを期待された。



## (2) 課題の整理

調査を通じて課題が以下のように整理された。

### ① 観光客の減少

賢島はもともとは英虞湾への航路の玄関口として栄えたが、モータリゼーションの進展の結果、航路の利用客が減少した。賢島の先にどのような資源がありどのように活用すべきかを考えることが必要である。

### ② まちが見えない

賢島の玄関口である賢島駅はせっかく見晴らしのいい高台にありながらも海を眺めることができない。商店街の景観、賢島全体の景観を意識することが必要である。

### ③ 海を感じる場所が少ない

堤防に視界を遮られて駅前商店街から海が見えない。海と人との距離を近づけることが必要である。

### ④ 現存する歴史的な資源が活かされていない

御木本幸吉に関する歴史や、松井真珠店のような歴史と趣のある建物など、もともと賢島に存在する歴史的資源に目を向け、保存や利活用を考えていくことが必要である。

### ⑤ まちの空洞化

企業の保養所・大型ホテル・店舗等の閉鎖・縮小に対して何らかの利活用策が必要である。

### ⑥ 多様な客層への対応の遅れ

従来の「見る」観光から「食べる」「知る」「体験する」「交流する」観光へのニーズの変化に対応することが必要である。高齢化、国際化にも対応することが必要である。

### ⑦ 組織化の必要性

住民それぞれの活動が多様化する中で、それらを組織化し賢島全体としてまとまって継続的に活動していく必要がある。

## (3) 「5つの方針」と「9つのプロジェクト」

以上を踏まえて、「5つの方針」と「9つのプロジェクト」がとりまとめられた（「賢島活性化計画」）。

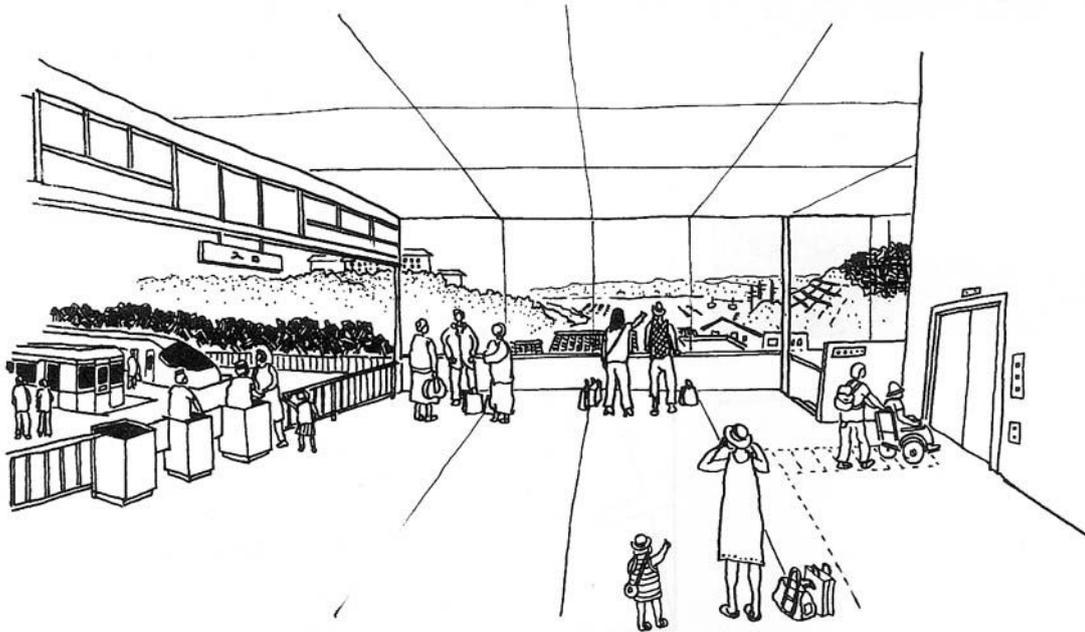
### [5つの方針]

- ① どこもかしこも（賢島内を3つのゾーンで捉え、様々な場所をつないでいく）
- ② 本物志向（資源や素材を生かして「本物」「ブランド性」を磨いていく）
- ③ ツーリズム（環境・体験・交流をキーワードに新しい観光ソフトをつくり出す）
- ④ ユニバーサル（ターゲットを広く多様に見据え、誰もが使える賢島をつくる）
- ⑤ そのさきへ（賢島を、観光客が志摩を楽しむための「中継拠点」と捉える）

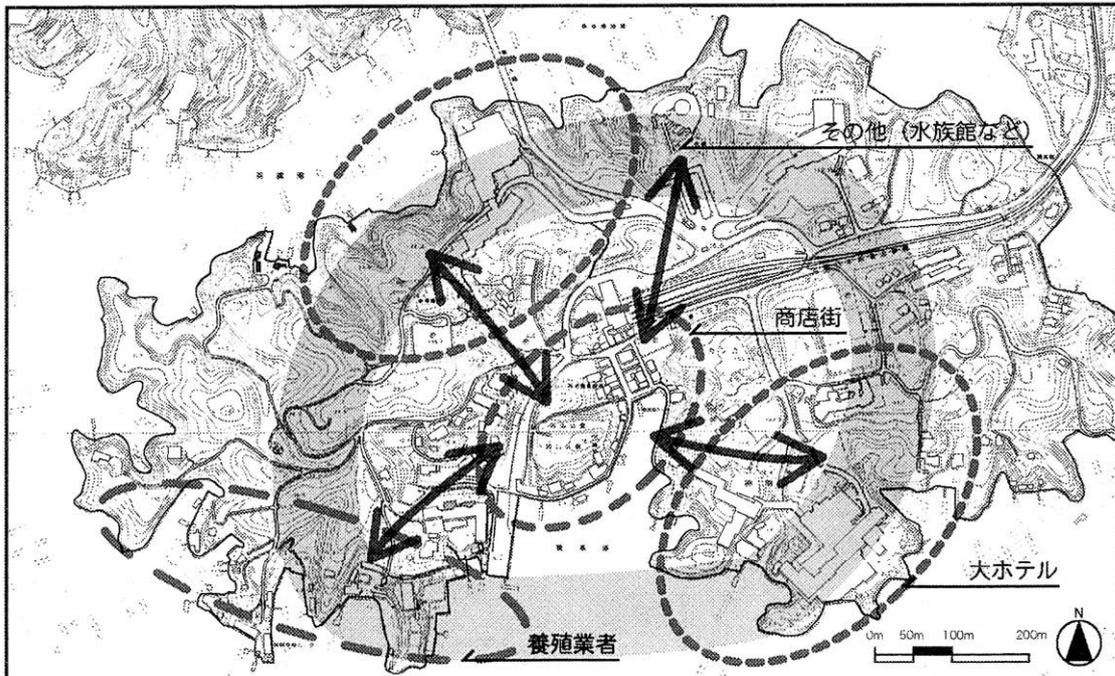
### [9つのプロジェクト]

- ① 賢島リニューアル（エレベーター／エスカレーター／眺め 等）
- ② 駅前にぎわい空間づくり（歩行者空間／仮設店舗／アクセスルート／公共駐車場 等）
- ③ 海と近づく場づくり（海上デッキ／海沿い空間整備 等）

- ④ 歴史的建築資源の保全・活用(木造伝統建築物の保存・活用 等)
- ⑤ 空きホテル・空き保養所の再生(新しい使い方／新しい仕組み／地域ビジネス 等)
- ⑥ 島内めぐりルートづくり(ルート設定／ガイド／サイン 等)
- ⑦ 多徳島の整備・活用(ランドスケープ／5つの場所／記憶・地形・風景と活動／環境 等)
- ⑧ 円山公園の整備・活用(展望デッキ・施設／広場整備・活用／アクセス道・遊歩道整備 等)
- ⑨ 仕組み・体制づくり(組織・体制の確立／活性化ソフト・プログラム 等)



海への視線をつくりだす

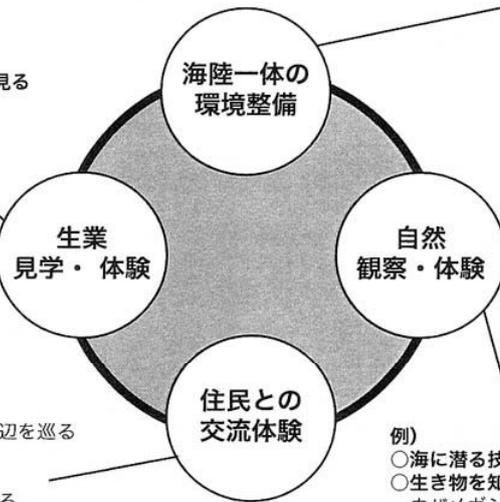


場所をつなぐ



- 例)
- 真珠、牡蠣養殖を体験  
核入れ作業など
  - 海を使う知恵を海中から見る  
養殖筏など

- 例)
- 海環境整備  
ヘドロ除去  
貝殻ひろい
  - 山環境整備  
藪刈りツアー  
植林体験

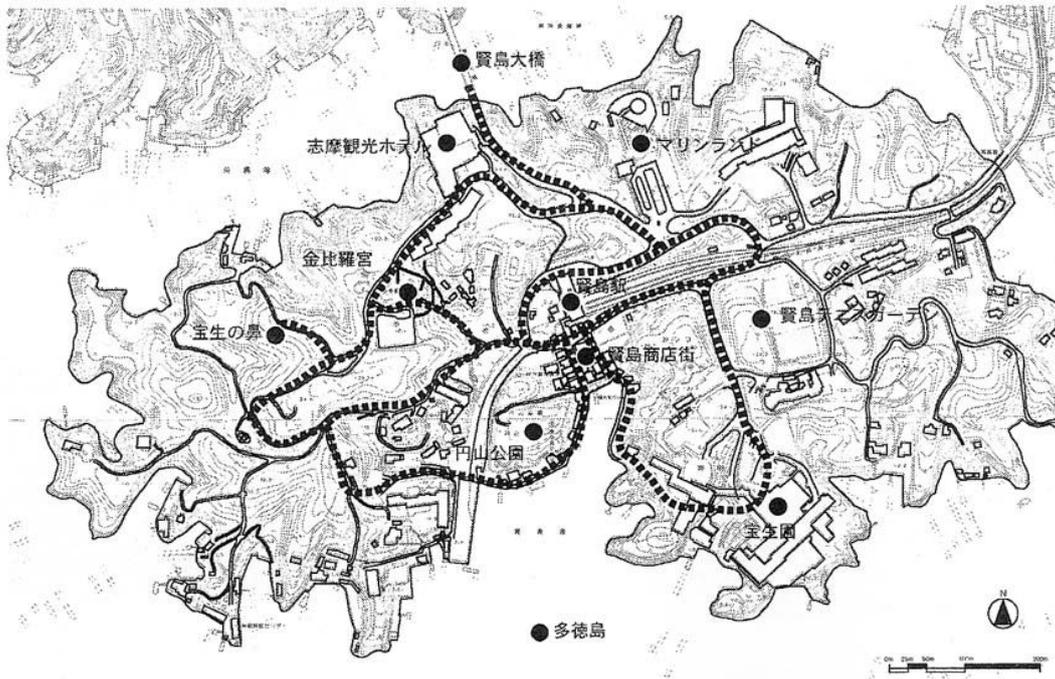


- 例)
- 語り部バスツアー  
住民がバスガイドとなり周辺を巡る
  - 自然体験ナビゲーター  
住民の説明を受けながら  
多徳島や賢島西部を歩き回る
  - 各種プログラムでの  
観光客と住民の協働作業

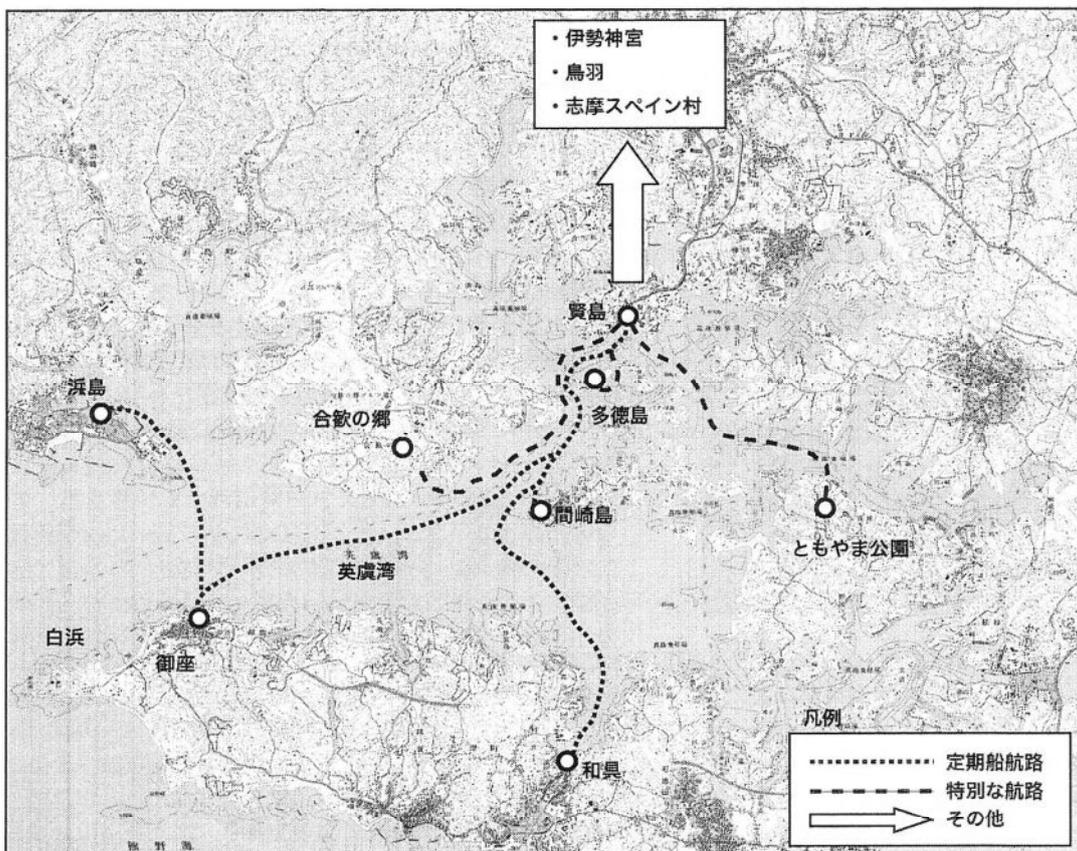
- 例)
- 海に潜る技術を学ぶ
  - 生き物を知る  
ウバメガシ、サルトリイバラ、ソヨゴなど植物  
タヌキ・キツネ・海を渡るイノシシ  
コジュケイ・アカテガニ・カブトムシなどの動物  
四季毎の地域の資源を観察・体験する



課題の整理(ツーリズムの例)

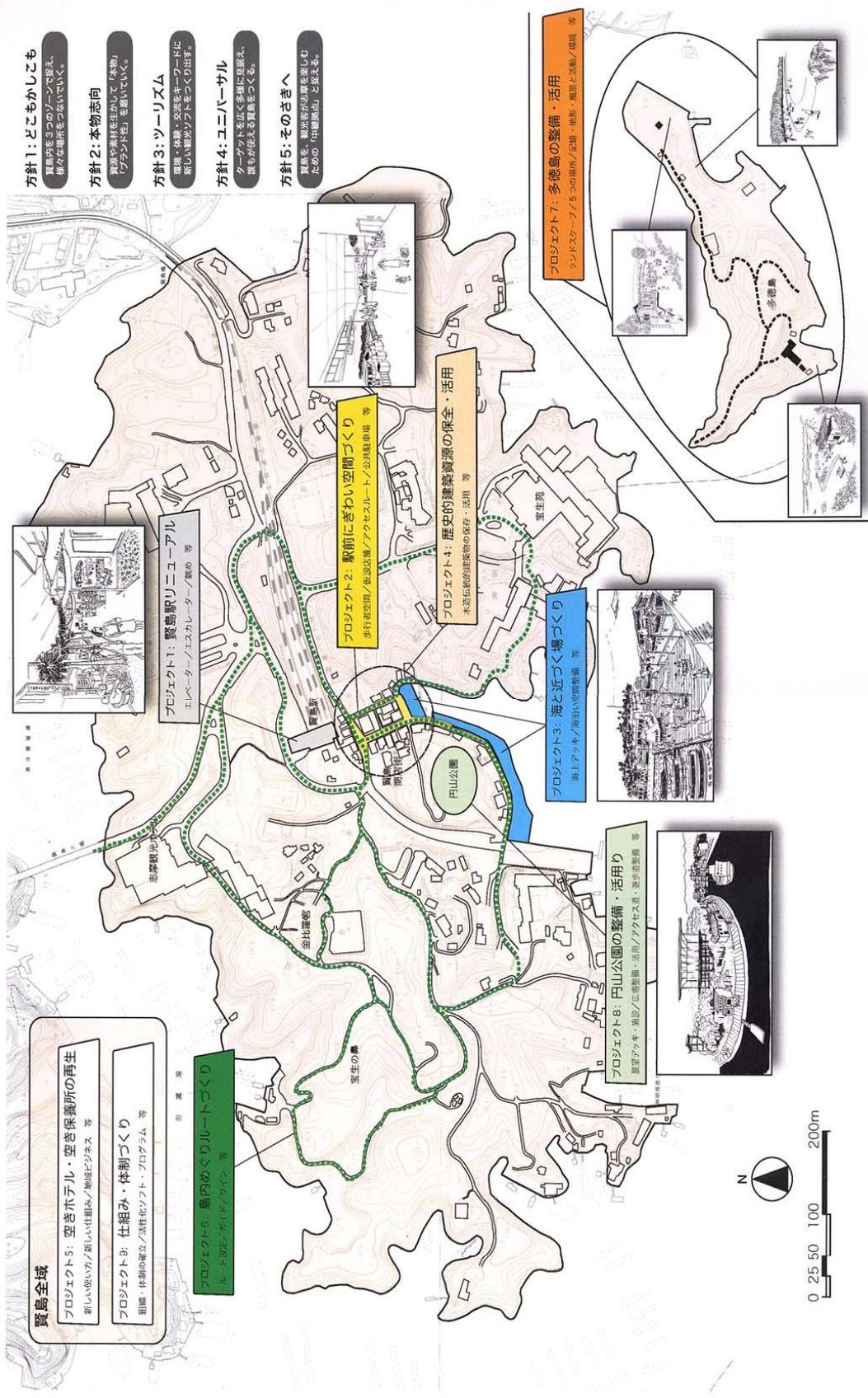


見どころを結ぶルートの整備



「そのさき」イメージ

賢島活性化計画図



- 方針1: どこもかしこも**  
賢島内を3つのゾーンで区画、様々な場所を定めていく。
- 方針2: 本物志向**  
賢島を再発見するために「本物」「オリジナル性」を重視していく。
- 方針3: ツーリズム**  
環境・体験・交流をキーワードに、新しい観光ソフトをつくり出す。
- 方針4: ユニバーサル**  
ターゲットを広く多様に見据え、誰もが使える賢島をつくる。
- 方針5: そのさきへ**  
賢島を、観光客が帰郷を望むための「中継拠点」と捉える。

**賢島全域**  
プロジェクト5: 空きホテル・空き保養所の再生  
新しい使い方/新しい仕組み/地域ビジネス 等

プロジェクト9: 仕組み・体制づくり  
組織・体制の確立/活性化ソフト・プログラム 等

**賢島駅前ニューアール**  
エレベーター/エスカレーター/観音 等

**プロジェクト2: 駅前にぎわい空間づくり**  
歩行者空間/夜間店舗/アクセシブル/公設駐車場 等

**プロジェクト4: 歴史的建築資源の保全・活用**  
本道伝統的建築物の保存・活用 等

**プロジェクト3: 海と近づく場づくり**  
海上デッキ/海苔いり亭新築 等

**プロジェクト8: 円山公園の整備・活用**  
遊歩デッキ・施設/広場整備・活用/アクセシブル、遊歩道整備 等

**プロジェクト6: 島内めぐりルートづくり**  
ルート設定/ガイドサイン 等

**プロジェクト7: 多徳島の整備・活用**  
ランドマーク/ゾーンの創出/公園、神社、施設と活動/滞在 等



## 5. 特徴的手法

市民、企業、行政、学識経験者等が協働でまちづくりのあり方を検討したこと、地域の問題点、活用できる資源等を丹念に調査したこと等が大きな特徴である。

## 6. 課題

提案された計画を今後いかに実行していくか、その過程で関係者の協働体制をどのように組んでいくかが課題である。

(参考・引用文献)

都市再生本部ホームページ

志摩市ホームページ